

指定管理者制度活用事業 評価シート(特別養護老人ホーム)

1. 基本事項

施設名称	川崎市特別養護老人ホーム すみよし	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 セイワ ・代表者名 理事長 石野 厚 ・住所 川崎市高津区末長1-3-13	評価者	高齢者事業推進課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

2. 事業実績

利用実績

①特別養護老人ホーム事業(入所定員 84 人)
在籍者数 83人(平成31年3月31日現在:入院等不在者を含む)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
利用者数	0	1	6	38	38	0	83

②通所介護事業(通所定員 30人/日)
年間延べ利用者数 8,372人:定員に対する稼働率90.7%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ利用者数	746	767	734	726	745	682
延べ利用者数	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用者数	735	681	663	628	603	662

③短期入所事業(入所定員 16人)
年間延べ利用者数 5,861人:定員に対する稼働率100.4%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ利用者数	504	494	462	480	503	533
延べ利用者数	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用者数	514	477	497	451	438	508

④居宅介護支援事業
給付管理者数(平成31年3月分)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
管理者数	27	13	18	7	1	20	86

収支実績

①特別養護老人ホーム事業
(収入)

介護料収入	300,823,097
利用者等利用料収入	78,934,870
その他の事業収入	2,126,179
合計	381,884,146

(支出)

人件費	238,262,810
事業費	56,881,127
事務費	55,434,504
合計	350,578,441
(収支差額)	31,305,705

②通所介護事業
(収入)

介護料収入	73,447,238
利用者等利用料収入	6,975,732
その他の事業収入	4,269,178
合計	84,692,148

(支出)

人件費	55,276,433
事業費	8,725,722
事務費	8,945,620
合計	72,947,775
(収支差額)	11,744,373

③短期入所事業
(収入)

介護料収入	56,598,311
利用者等利用料収入	15,772,104
その他の事業収入	0
合計	72,370,415

(支出)

人件費	36,540,500
事業費	10,397,299
事務費	9,143,405
合計	56,081,204
(収支差額)	16,289,211

④居宅介護支援事業
(収入)

介護料収入	10,776,460
利用者等利用料収入	451,232
その他の事業収入	14,688
合計	11,242,380

(支出)

人件費	18,643,810
事業費	62,120
事務費	898,866
合計	19,604,796
(収支差額)	▲ 8,362,416

(収入)

介護料収入	441,645,106
利用者等利用料収入	102,133,938
その他の事業収入	6,410,045
合計	550,189,089

(支出)

人件費	348,723,553
事業費	76,066,268
事務費	74,422,395
合計	499,212,216
(収支差額)	50,976,873

サービス向上
の取組

○平成29年度に介護ロボット活用推進プロジェクトを立ち上げ、平成30年度本格始動した「介護ロボット」の積極的な活用と移乗介助においてスライディングボードを活用した二人介助での方法等の取り組みによって、利用者・介護者双方の体力・精神的な負担軽減により、ゆとりのあるサービス向上につながっている。

○特養では、空きベッドを持たない基本方針のもと事前の情報確認の強化による退所後のスムーズな受け入れと、また、日常ケアと観察により入院者を減少させたことで特養と短期入所のベッドの年間合計利用率97.9%とし、前年度を上回ることができた。

○初の試みとして、近隣の養護学校の社会奉仕活動の受け入れを実施。地域で行われる講座やイベントなどへ積極的な参加を通して、地域からの相談しやすい体制づくりを進め、事業理念である「集客から創客へ」を基に地域における福祉施設の理解と地域福祉の活性化にも努めている。

○施設としての取組み全般について、昨年に引き続き神奈川県から県内の介護サービスの質や人材育成、処遇改善について一定の水準を満たしている事業所として「かながわ認証」を受けた。併せて入所系サービス部門は神奈川県が主催する「ベスト介護セレクト20」を受賞。顕著な成果を上げた県内20事業所の一つに選ばれた。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
適正な業務実施	質の高いサービスの提供	利用者のニーズに合わせたサービス提供が行われているか	10	5	10
		利用者等への情報提供等は十分に行われているか			
		地域交流(行事の開催やボランティアの受入等)を積極的に行っているか			
	健康管理	利用者の健康管理は適切に行われているか	10	4	8
		感染症への対策は適切に行われているか			
(評価の理由)					
施設サービスにおける食事では、管理栄養士を中心に栄養ケアマネジメントにおいて栄養状態の把握、多様化への対応に努めた結果、高リスク者が減少し、低リスク者が増加。毎日のケアでの「水分補給」を積極的に行い1日1000～1500ccを目安に介助。その結果として高い介護度に対し入院者数も年々減少傾向にあり。介護ロボット活用推進プロジェクトの本格活動により、それぞれの利用者に合った対応を日々検討することで利用者、介護者ともに負担軽減がみられた。前年度に引き続き、「かながわ認証」及びその中でも高い評価事業所のみに与えられる「ベスト介護セレクト20」受賞。川崎市指定情報公表センターより、5点満点中、施設サービス「5.0」通所「4.85」居宅支援「4.57」と高い評価を得る。 今年度は初の試みとして、近隣の養護学校の授業の一環である社会奉仕活動を毎週受け入れ実施。学生が利用者の目の前で清掃等を行うことで、感謝やねぎらいの言葉を直接受けることができ、学生の仕事に対するやりがいと地域社会との関係性の構築を図った。また、例年に増して幼稚園児～高校生の受け入れを実施し、利用者との交流の機会を増やすことができた。					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	5	4	4
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	5	4	4
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由)					
排泄用品(オムツ)について、アドバイザーによる研修を受け、利用者一人ひとりに合わせたオムツサイズを適宜調整してきた結果、無駄なオムツの使用が軽減したことで前年比より0.2%経費削減につながる。 平均介護度4.4、平均年齢88.1歳と超高齢化の中、入院率低下を目標に異変への早期発見に努め、入院者が30%減少。こうした取組みの下、特養では97.4%、短期入所は100.4%となり合算での利用率は97.9%と前年度(97.4%)を上回る。 新規加算取得については、施設サービスでは「褥瘡マネジメント加算」「経口維持加算」の取得に、通所では「中重度ケア加算」「認知症加算」に取得により大きな収入の増加につながった。 今年度は、外部会計監査法人により期中監査を受け「適切に整備・運用されている」との評価を得た。					
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	5	10
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	サービス向上のための取り組みがなされているか	10	4	8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	4	8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか					
(評価の理由)					
「すみよし介護ロボット活用推進プロジェクト」を通して、ベッド・リクライニング車イス一体型介護ロボット「リシオーネ」と、AI機能搭載の癒し介護ロボット「パロ」を各フロアに導入、通所ではPALROを導入。移乗介助において「持ち上げない」「抱えない」をスローガンに、何度も試行を重ね、スライディングボードを活用した二人介助での「すべらす」「平行移乗」方法を確立。さまざまな手法によって、介護職員の身体的・精神的負担軽減、また利用者の精神的負担軽減を図れた。(職員による効果検証を実施) 通所介護では、家族懇談会の回数を増やした効果では、大きくは利用者家族とのコミュニケーション機会の増大と信頼関係の構築につながった。 職員からの意見確認として、今年度は新たに「職員提案制度」により、事業運営への積極的な参加と業務に関する職員からの意見や希望を確認することができた。また、接遇向上への取り組みとして「ハッピーマナーカード」の採用により、他職員からの業務に対する意見や助言、評価を自由に投函できるよう環境整備を行った。 ベスト介護セレクト20で受賞した報奨金を「職員資格取得支援制度・職員外部研修受講支援制度」として活用し、研修・資格取得を通じて更なるスキルアップ及び意欲向上を図り、結果として施設介護力の向上につなげた。					

組織管理体制	適正な管理体制の構築	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
		定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
		再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	10	5	10
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		事故等が発生した場合における報告等の体制は適切か			
		実際に事故等が発生した場合の対応は適切であったか。また、再発防止の取り組みがなされたか。			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
		個人情報の管理は適切に行われているか			
	(評価の理由)				
人員配置として、職員が心身ともに健全な状態で利用者の生活支援していくために、介護・看護職員の配置を加配している。 今年度は、新人・異動職員4名のセイフOJTを年度通して実施し、個々がその役割を自覚するだけでなく指導職員側の責任感を向上させる機会にもなった。また、人材不足の中でも可能な限り外部研修へ積極的に参加し、その学びを研修報告で施設に還元。実践した経緯・経過・効果・再課題をあらためて示すことで、介護ストレスに対するアプローチ手法の一つとしてみなで共有することが出来た。さらに、前年度より課題としていた職員の研修出席率向上に向けた取り組みとして、同研修を2回に分け今年度も実施してきた効果が現れている。 地域包括の職員が福祉コーディネーターの資格取得をすることで、利用者に合った福祉用具を提供できる仕組みをつくった。 事故報告書については、今年度より書式を新たに「傷・皮下出血等確認報告書」に変更し、利用者の変化等がより明確のわかるものとなり活用している。 今年度は「個人情報等の取扱いに関する安全管理措置」「個人情報に対する保護方針」の改正を行った。携帯電話の取扱い、持ち出し方法について全事業で見直し、個人情報に関わる発信・受信履歴の都度削除、落下予防に対し所持方法の改正、管理場所を改めて見直し、持ち出し・返却時の手順と管理表をまとめ必ず管理者までの押印確認することで徹底した。					
適正な施設管理	施設・設備の保守管理、清掃、警備等	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	10	3	6
		業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
		施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
		施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
		外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
		設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由)				
	正面玄関の補修工事・下駄箱の更新工事等、築25年目ということもあり汚れや傷みが目立ってきた箇所についても手を入れ、施設来館者へ不快な印象を与えないよう取り組んだ。 「職員提案制度」により、玄関下駄箱の改修と施設内に快適な音楽を流せるようUSENを導入し環境整備に反映している。 施設正面玄関の塗装及びクリーニング、送迎車両の過度な荷重により発生していたタイルのひび割れについても修繕し更に玄関入口の来館者用下駄箱の改修工事を実施し施設内環境の整備に積極的に着手。職員による交代制での施設周辺の清掃を週2回実施し、施設外においての環境の美化にも取り組んだ。				

4. 総合評価

評価点合計	84	評価ランク	A
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

地域の拠点施設として機能を果たせるよう、職員一丸となりチャレンジし前進する積極的な取り組みがみられる。 ベスト介護セレクト20で受賞した報奨金を「職員資格取得支援制度・職員外部研修受講支援制度」として活用し、研修・資格取得を通じて更なるスキルアップ及び意欲向上を図り、結果としてさらに施設介護力の向上につなげている。 利用者ケアにおける介護技術力の向上や介護ロボットを活用した新たな介護手法の習得を図り、介護者の負担軽減、利用者の精神的負担軽減につなげていった。今後Wi-Fi環境を整備していくことでの新たな活用方法にも期待する。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

指導事項等なし
